

低栄養状態の関与が推察された糖尿病患者に 発症した気腫性膀胱炎の1例

江原省治¹⁾ 小林祥也²⁾

キーワード：高齢女性，低栄養，糖尿病，気腫性膀胱炎

要 旨

患者は糖尿病を基礎に持つ88歳，女性。肺結核の継続治療とリハビリテーションのため当院内科へ入院となった。入院時より HbA1c は正常範囲内で血糖コントロールは良好であったが，嘔吐で食事摂取量が減少，肉眼的血尿が出現，CT スキャンで気腫性膀胱炎の診断となった。尿培養では *Klebsiella oxytoca*，*Enterococcus faecium* が検出された。IPM/CS を投与，間欠的導尿を行い約2週間後には膀胱の気腫性変化は消失した。血糖コントロールが良好な高齢糖尿病患者に発症した気腫性膀胱炎であり，発症に嘔吐による低栄養状態の関与が推察された。早期の抗菌薬投与，膀胱ドレナージなどの内科的治療により予後は比較的良好であるが，重症化すれば外科的治療が必要となり，また死亡例の報告もあり注意深い治療が必要である。

はじめに

気腫性膀胱炎はガス産生菌により膀胱内，膀胱壁にガスが貯留するまれな膀胱炎で，血糖コントロールが不良の糖尿病に発症することが多いとされている。今回，血糖コントロールが良好な高齢女性糖尿病患者で，発症に嘔吐による低栄養状態の関与が推察された1症例を経験したので報告する。

症 例

患者：88歳，女性
主訴：肉眼的血尿
既往歴：2004年に胆嚢摘出術，子宮摘出術を受けた
家族歴：特記すべきことなし
現病歴：2013年4月に2型糖尿病を発症，DPP-4阻害薬で治療が開始された。同年5月から肺結核のため他院で入院治療を受け，同年9月30日ガブキー陰性のため，抗結核薬（EB+INH+LVFX）の継続とリハビリテーション目的で当院内科へ入院となった。入院時の HbA1c は正常範囲内で血

Shoji EHARA et al.

1) 出雲市立総合医療センター泌尿器科 2) 同 内科
連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613番地
出雲市立総合医療センター泌尿器科